

# 口で紐解けば日暮や西行忌

藤田湘子

この紐は何の紐だろう。口で解くほどの固い結び目なのだろうか。風呂敷や荷造り紐など日常の紐を想像してみても「口で紐解く」凶は、どうもピンとこない。

西行忌は陰暦二月十六日、陽暦の三月三十一日頃にあたる。「願はくは花のもとにて春死なむそのきさらぎの望月のころ」と詠った辞世の通り、満開の桜と満月の頃、予言とも取れる最期を迎えた。

およそ物書きは西行や芭蕉にあこがれ、己が果たせなかつたさすらいへの夢をさがし、歌枕にあこがれる。

湘子には「わが捨てし望みの数や西行忌」という句もあり、人生や旅、漂泊などについて紐解きながら、西行のことを思ったのかもしれない。

1979年(49作) 第四句集『狩人』 鑑賞・野本京